

ぱれっと

Palette

11

2023 November
vol.279

特集 「営農振興計画」のあゆみ

農を担う
米麦・野菜農家 糸井 大介 さん
長船地区……………10ページ

今月の折り込み 2023年11月号カタログショッピングチラシ ほか

藤田営農センター

基本テーマ

持続可能な農業の実践へ



藤田営農センター



基本テーマについて

農業を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。温暖化の影響が顕著にあらわれはじめ、栽培面では今までの常識が通用しなくなってきました。また、肥料・農薬・資材をはじめとする原料高が農家の経営を圧迫しています。そのような状況に対応するために、積極的に農家の方々と関係機関と連携を図りながら、営農センターでは引き続き、水稻の安定多収技術の導入や販売戦略の強化、高品質麦の生産、露地野菜を中心とした園芸品目の作付け推進に取り組み、「持続可能な農業」の実践に取り組みます。

米の収量拡大と販売戦略の強化

近年の温暖化で高温による様々な影響が報告されています。対策として、水稻講習会を地域性に合わせ3力所に分けて年数回開催し、昨年度の生育の振り返りや葉色からわかる稲の状態の確認方法を指導しています。また、病害虫も年々増加傾向であることから、防除の徹底を呼びかけました。TAC指導員を中心に肥培管理など現地での営農指導にも努めました。本所指導課と連携し、ドローンを活用したりモーターセンシング技術の検証も行っています。生育データの結果を用いて適正な施肥の指導を行うことが目標です。

小麦実需者との結び付きの強化の一環として、関係期間と連携して里海米、特別栽培米の生産拡大に取り組みました。里海米では令和4年産で出荷実績2341・5俵となりました。今後有利方法



ドローンを使って生育を調査



稲の葉色を確認

に向けて実需者との情報交換を行っています。

水田フル活用による野菜の生産振興

水稻経営と両立できる品目としてタマネギ、キャベツなど作付けの推進を行いました。(令和4年度新規作付面積…タマネギ1・5畝、キャベツ0・17畝)タマネギでは藤田タマネギ部会と協力し、作付け拡大に向け希望者を対象にほ場見学会を開催し、令和6年産より2名が新たに栽培に取り組みます。その他にも、市場ニーズに応じた生産振興としてゴーヤの栽培試験を行っています。

若手職員の指導力の向上

OJT教育の一環として、新たに設立した藤田里海米研究会の事務局担当を若手職員に任せました。生産者組織に携わることによって知識や技術の向上を図りました。また、責任感も芽生えてきたように感じます。若手職員が生産組織に関わることで、営農指導、販売対応など様々な経験を積むことができました。

TAC指導員も若手が多く、定期的にTACミーティングを開き情報共有を図っています。それぞれが課題を持ち、解決に向けて考え、実践することで能力向上につながっています。



2年目につなぐセンター長の思い

当センターでは、岡山平野の南部に位置し、沖積平野および干拓地を有する地域で古くから地形を生かした水稻と麦類の栽培が盛んです。近年の高齢化による生産者、生産面積の減少や、資材の高騰に直面している中、持続可能な農業を実現し続けなければなりません。そのためには、農業経営が潤滑に進んでいくよう、生産者にとって有益な情報をいち早く集め、生産者の所得向上につなげるため、様々な提案を行っていきたくと思っています。

藤田営農センター管内の「にこまる」は、一等米比率や、年間を通しての食味値について関係企業から高い評価を得ています。そこに「里海米」の付加価値をつけ有利販売を目指しています。求められる収量と品質の高いものを生産し、令和5年度は1万俵の出荷を目指しています。従来から生産している「朝日」「アケボノ」についても、地域と気候に合った主食用米として、さらなる収量・品質の向上を目指していきます。

営農センターの職員には、営農指導に関する知識や技能を蓄えながら、自分自身の強みを生かし、日々の業務に取り組んでもらいたいと思っています。職員の一人一人が、生産者の方から必要とされる存在になるよう、しっかりと出向いて信頼関係を深めていってほしいと思います。



氏名:小林 勝志

趣味:映画鑑賞 好物:新米

座右の銘:温故知新

備南営農センター

基本テーマ

未来ある農業

「輝く生産者」とよろこぶ消費者の架橋」



備南営農センター



基本テーマについて

農業を取り巻く環境は、温暖化や生産者の高齢化、多様化する消費者のニーズなど大きく変化しています。生産者の様々な農業経営に関する要望に応えて活力のある農業の実現に尽力し、生産者と消費者の橋渡しとなるよう取り組みます。

既存産地としての安定生産と園芸生産振興の体制作り

関係機関と連携し、多種多様な園芸品目のほ場巡回を実施しました。（施設園芸：36回／年、露地園芸：49回／年）

備南施設ナスでは出荷量の向上のため、単為結果性品種への導入試験を実施し、令和7年度産からの本格導入を前に収量と品質のデータ収集、品質特性の比較検討を行いました。またハウス内に環境測定装置を設置し、月毎のデータをグラフ化し生育調査を実施しました。

園芸品目の作付面積拡大の推進を図り、施肥ならびに防除の提案と指導を行い栽培面積の拡大に努めました。（令和4年度新規作付面積：ニンニク：108畝、キャベツ：200畝、タマネギ：620畝、小玉スイカ：10畝、ブドウ：20畝）

キャベツのリレー出荷体系確立のために試験栽培を行い、実証結果を取りまとめました。



小玉スイカは、種苗会社や市場等と連携しほ場巡回を行い出荷体制の確立と栽培技術の向上を図りました。

地域ブランド力の強化

各生産組織を中心に販売戦略会議を開催し、関係機関と出荷量や価格について協議しました。また荷造り包装に掛かる諸経費の高騰対策として簡易包装や出荷規格について協議検討を行いました。（販売戦略会議36回／年）

ブランド力の向上と消費宣伝活動の一環として岡山市長への表敬訪問や、コンビニエンスストアとのコラボ商品を製作し、メディアを活用した認知度の向上を図りました。近隣小学校の児童らに向けて収穫体験や、出荷見学、農産物をプレゼントし、食農教育と産地のPRにつなげました。また、スイートピーPR資材としてのぼりやポスターを作成し、地元「道の駅」のイベント販売を行いました。



2年目につなぐセンター長の思い

備南営農センターの農産物は、米麦の他にナス、レンコン、ブドウ、スイートピーなど地域を代表とする産地が形成されており、地域ブランドとして全国に展開されています。これらの産地をさらに盛り上げるために、農産物ブランドのPRと認知度の向上に力を注ぎ、生産組織や関係機関と協力し取り組んでいきます。当センターには育苗センターが併設されており、多種多様な苗を栽培し、新たな園芸品目の提案にも役立てています。農業が様々な面において多様化していく中、新たな園芸品目の試験栽培の確立や、意欲ある新規就農者を支援し生産基盤の強化を図ります。

当センターのファンになり、リピートしてもらえよう、資材店に訪れた方や特色のある作物を栽培されている方、新しい品目に挑戦される方へ必要な情報を提供し、利用者とのつながりを大切にしていきたいです。肥料や農薬の情報を提案し、農業に携わるすべての方にとって必要とされるセンターになることを目指します。

営農指導員は、生産者とコミュニケーションをとることで多くの生きた知識が習得できます。営農指導員として成長できる近道となるのでこのチャンス逃さないでほしいです。今後も、活力ある農業を実現し、生産者と消費者をつなぐ架け橋として努めていきます。



氏名：井野川 勝一
趣味：ドライブ・畑仕事 好物：果物
座右の銘：実るほど頭を垂れる稲穂かな

楽しく、元気で、晴ればれと働ける農業。

糸井 大介さん

長船地区：米麦・野菜農家

「いとい だいすけ」

昭和35年生まれ。株式会社晴々農場 代表取締役。長船蔬菜部会。趣味は、美味しいものを見つけて食べる。座右の銘は「失敗することを恐れるよりも、真剣でないことを恐れない」。



9月22日、長船地区の糸井大介さんにお話を伺いました。

安全なものを作りたい

―就農したきっかけは

就農前は、東京で経営コンサルタントの仕事をしていました。仕事で国内・海外を訪れ各地の食事を食べてきました。しかし、海外では食品の安全性に関するニュースなども流れ、不安を感じました。その頃から自分で安心できる食材を作ることができると農業に興味を持ち始めました。コンサルタントは、お客様の会社を良くするために働いて喜んでいただく仕事ですが、いつかは、自分の力で自分の会社を良くしてみたいと思



農業についての思いを話す糸井さん

い、45歳を過ぎた頃、これから今の仕事で将来自分が輝き続けていられるのか疑問を持ち、農業をしようと思心しました。

―岡山で農業を

仕事で岡山の企業に通っていたとき、食べ物がとてもおいしく、町の雰囲気が良かったことから、ここで仕事がしたいと思いました。岡山県の新規就農研修制度があり、長船で開催された有機農法の研究会で知り合った方から米麦経営の農家を紹介していただきました。そこで、54歳の時、会社を辞めてアルバイトとして農業を始めました。

―農業を始めてからは

6年間アルバイトをして3年前、農家の方が高齢で引退された時に米麦30畝、大豆4畝を引継ぎ法人化しました。米麦だけでは作業時期が集中するので、従業員が年間を通じて仕事ができるように、昨年からは野菜の栽培を始め、ナス・キャベツ・白菜・カリフラワー合わせて20畝を作付けしました。今は、3人の従業員と米麦の農繁期にアルバイトを雇っています。

―苦労することは

自分で農業経営を始めると、栽培の手順や、水の管理など、計画通りにいかないことも多く、失敗ばかりでした。しかし、失敗することによってそこから学びがあります。原因を調べてそこからアイデアが生まれ、原因を克服して成功できた達成感を味わうと、また、頑張ってみようと思えます。

美味しいと言ってもらえるものを作り、届けたい

―今後の抱負は

米麦を中心に作付けし、野菜ももっと品種や収量を増やしたいと思えます。そのためには、いろんな経験を積んだ方に来ていただき、得意分野で、農業に取り組んでいただき、後継者を育てたいです。

農業で、晴々と楽しく元気に働いて、消費者の皆様に美味しいと言ってもらえる物をお届けしたいと思います。

聞き手：JA岡山広報担当



キャベツの苗を定植する糸井さん



(株)晴々農場のメンバー

野菜

タマネギについてご紹介
します



営農部指導課
祇園 将人

◎タマネギの栽培の注意点について
今月はタマネギの栽培についての
注意点を説明します。

●畑の選定

タマネギは連作もできる野菜ですが、昨年の残さで病気の菌が畑に残っている場合があるので、できれば連作を避けた畑を選びましょう。半日日陰の畑でも栽培できますが、排水性が悪い畑だと病気が発生したり貯蔵中に腐敗する原因となるので、排水性のよい畑を選びます。排水性が心配な畑では高畝で栽培しましょう。しかし、高畝栽培は乾燥が続く畑が極端に乾くと球の肥大が劣るので灌水が必要になる場合があります。

●肥料の注意点

タマネギは酸性土壌を嫌うので植え付け2週間前には必ず石灰を施用

花き

まだ間にあう
小型球根色々



営農部指導課
中川 雄一

種類によっては、寒くなる前に植え付けてしっかり根を張らせた方がよくできるものもあります。先月のチューリップでも解説したように特に急がなくてもまだ間にあいます。ただし、店頭に長く置かれた球根は傷んでいることもあるので、元気なものを選びましょう。

●秋植え球根の特徴

秋に植え付ける球根の種類はとても豊富で、好きな人にとっては楽しみなものです。その中には、地中海沿岸地域や南アフリカや南米の、夏が高温で雨が少なく、冬温暖で雨が多い地域原産のものも多くあります。とはいえ、沿岸部から内陸、標高の違いもあって、種類毎に好む環境に違いはあるようですが、おおまかにはそのような気象条件が好ましいと理解できます。

日本ですべてを考えると、冬はより寒いことが多く、夏は高温で雨がよく降ります。日本では、特にこの夏の多雨が厳しいので、球根が腐らないように掘り上げ、風通しのよいところで保管するものもあります。今回は、チヨットかわい花の紹介です。

●スノードロップ

その名の通り、白い花をまだ寒い

しましょう。一発肥以外は元肥を行います。追肥をしますが、極早生・早生種では止め肥は2月上旬、中生・晩生種では3月上旬とします。それより遅い追肥は貯蔵中の早期腐敗の原因となるので注意しましょう。また、あまり窒素過多になると地上部の茎が過繁茂となり、病害虫が発生しやすくなるので肥料のやりすぎも厳禁です。

●苗・植え付けの注意点

苗を選ぶときに気をつけるのが、苗の大きさです(資料1)。大きくて立派な大きい苗を植えると、とう立ちや分球の原因になります。また、太さ6〜7mmの適正な大きさの苗でも、早く収穫しようと早植えしてしまうと、とう立ちや分球の原因になります。とう立ちの主な原因は、ある一定の大きさになった苗が、低温に一定期間あうと花芽を分化し、茎が伸びて春にむけてとう立ちが進みます。なので年末までに生育がよく進み大きくなった、暖冬で生育が進んでもとう立ちしやすくなるので注意しましょう。

●防除

べと病は温かく湿度が高い時に発生しやすい病気です。12月中旬に防除し、暖かくなり始めた3月上旬には発病していても予防として防除しましょう(資料2)。その後もべと病はほ場を確認しながらの防除が必要ですが、中生以降になると貯蔵中の腐敗の原因になる灰色腐敗病や黒かび病(資料3)の防除も必要になります。

時期から下向きに咲かせます。高さは15cmほど、寒さには強く暑さが苦手です。数年は植えっぱなしでもよく開花するので、冬明るく、夏は日陰になる落葉樹の下などに植え付けるのが最適です。少量の緩効性の肥料を植え付け場所の土にまぜ、球根の3倍ほどの深さに植えます。花が小さいので近くに数株植えると見栄えがします。排水の良い、夏日陰になるところなら掘り上げる必要はありませんが、草に覆われたり、ほかの植物に紛れてわからなくなったりして、姿を消すことがあるので、注意ください。ほかの秋植え球根に共通ですが、花が咲くまでの期間と花後の葉が活動している時期に成長し、また、球根を充実させるので、花がらを摘んで結実させないこと、花後にもいくらか追肥することに気をつけましょう。

●ペチコートスイセン(資料4)

左：花を後ろから見たところ。周りの細いのが花弁。
右：分球が進み、1輪しか開花しなかった株



●ペチコートスイセン(資料4)

左：正午ごろ、もう閉じ始めている。
右：花のそばにできはじめた朔果(種)

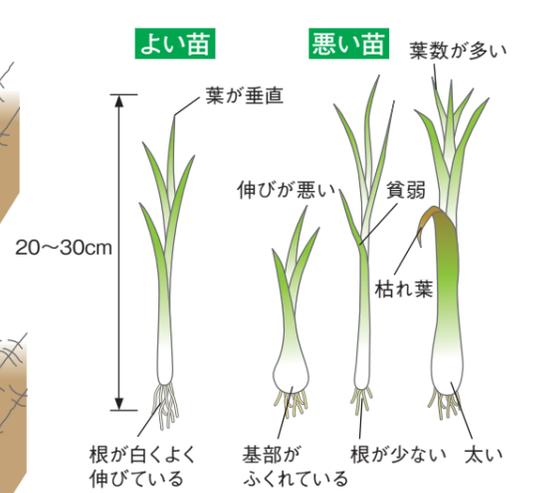


このほか、シラーやオーニソグラムなどのコンパクトなタイプ、ムスカリ、原種のチューリップなどかわいいものが多いです(資料6)。彩りに加えてみてください。コンパクトな花たちは、ハイドロポールで室内栽培して、花後は庭植えにして養成するのも向いています。

資料6 コンパクトな球根植物の例



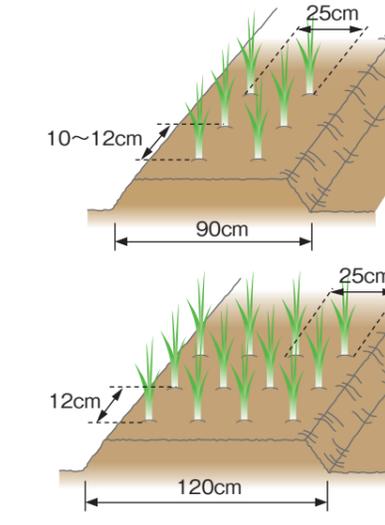
ります。5月以降にはべと病以外にも有効な薬剤を選びながら防除しましょう。収穫・貯蔵
収穫は天気の良い日に球の肥大を確認しながら順次抜き取っていきま。その後は畝の上で3日程度よく乾かしてから収穫します。収穫後は風通しのよい涼しい所で貯蔵してください。



資料2 タマネギに使用できる農薬(例)

農薬名	対象病害	倍率	使用時期	使用回数
シグナムWDG	べと病・灰色腐敗病	1,500倍	7日前	3回
ジマンダイセン水和剤	べと病・灰色腐敗病	400~600倍	3日前	5回
プロボーズ顆粒水和剤	べと病	1,000倍	7日前	3回
ベンレート水和剤	黒かび病・灰色腐敗病	2,000倍	前日	6回
ランマンフロアブル	べと病	2,000倍	7日前	4回

資料1 苗・植え付けの注意点



資料3 貯蔵中の病害



果樹

基肥や堆肥の施用は早めに行いましょう



営農部指導課 武田 祐一

基肥や堆肥の施用は早めに行い、灌水して肥効を促します。秋冬時期も乾燥が続くような場合は、灌水しましょう。落葉の処理や施設の点検整備などもこの時期に行いましょう。

●果樹苗木植え付け ・苗床の準備

果樹苗木は12月末には早期注文の苗木から順番に配付されると思います。植え穴は、肥料等をなじませるため、定植予定の1カ月前程度までに準備しておきます。

苗木1本につき、直径80〜100㎝深さ40〜60㎝程度の穴を掘ります。土質等での深さまで掘ると大変なので、難しい場合は、深さ30㎝程度は掘るようにしましょう。掘った穴には石灰類（苦土セルカ等）、リン酸類（溶リンやリンスタール力等）、リン酸類（溶リンやリンスタール力等）各1㎏と良質堆肥（完熟したもの）臭みが少なく、握るとこまかく砕ける）10㎏をよく土と混和して埋め戻し、表土を20〜30㎝盛り上げるようにしておきます（資料7）。苗床の準備が遅れる場合は、何処か暖かい場所へ仮植えしておきます。この時に注意して欲しいのは、苗木の束が大きく結束している場合は、ほどこいて根が密着しすぎないように少し離して仮植えしておきます。3月の春植えに向けて苗床を準備します。それまでは仮植え時に根が乾燥して枯れないように水分は適当に与えましょう。

・植え付け

小高い丘のように盛り土して植え付けの位置に支柱を立て、丘の上に苗木を置き、根が交差しないよう四方に広げ、根を土で軽く覆土し、直ちに十分灌水します。その後覆土を十分に行います。その際、接ぎ木部が隠れるほど覆土しないよう注意します。活着するまでは、根を乾かせると枯れてしまうので注意しましょう。

植え付け後は株元に土壤乾燥の防止と草覆いを兼ねて稲わらなどを敷きます（資料8）。

ほとんどの果樹苗木は接ぎ木部から30㎝程度の所でせん定し、支柱に8の字を描くように紐で誘引します。蔓性のブドウ等は、芽をよく確認し、4〜5節残してせん定します。無せん定にすると発芽しないこともあります。また、定植時に切り戻しが長いと弱く伸びます。

●ブルーベリーの栽培について（紹介）

ブルーベリーは「ハイブッシュ」と「ラビットアイ」の2系統に分かれます。「ハイブッシュ」系は耐寒性があり、暑さに弱い特性があります。一方、「ラビットアイ」系は耐暑性があり、寒さに弱い傾向があります。西日本なら育てやすさの面でラビットアイの品種がお薦めです。たくさんのお実を収穫したいなら同一系統の中から早生種・中生種・晩生種の別品種を2本以上植えて近くで育てるのがポイントです。

鉢植えのメリットは狭い場所で栽培でき、移動できることが魅力の1つです。半日陰で

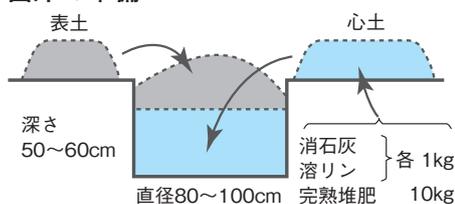
も育ちますが、花付きが悪くなるので、極力、日あたりのよい場所で育てれば成長を促せます。

植え付けは、真冬を除いて落葉期の11月〜3月初旬ごろの新芽が動き出す前が植え付けの適期です。ブルーベリー栽培での留意点は、土壌の適正pHの低さです。他果樹の適正pHは6.5〜7.0前後が多いですが、ブルーベリーの生育に適したpHは、ハイブッシュでpH4.3〜4.8、比較的育てやすいラビットアイでもpH4.5〜5.5と強酸性で排水良好な土壌で生育がよくなる性質があります。ブルーベリーは乾燥を嫌うため、植え付け時にはピートモスを根を包んでから植え付けます。水やりは、土壌表面が乾いたら鉢の底から水が出てくるくらいたっぷりを与えます。基本的には日中を避け、1日1回、夏場など暑い時期は土壌の様子を見て乾燥していたら夕方にも水やりをしましょう。ブルーベリーは乾燥が大の苦手です。鉢植えの場合は1度乾かすと復活に時間を要するので水切れに十分注意しましょう。秋からは灌水を徐々に控え、冬期の休眠中は降雨に任せるか乾いたら灌水します。

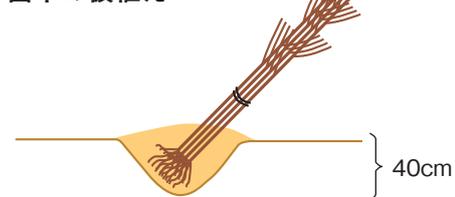
肥料は、3月の植え付け時や中下旬

資料7 苗木植え付け

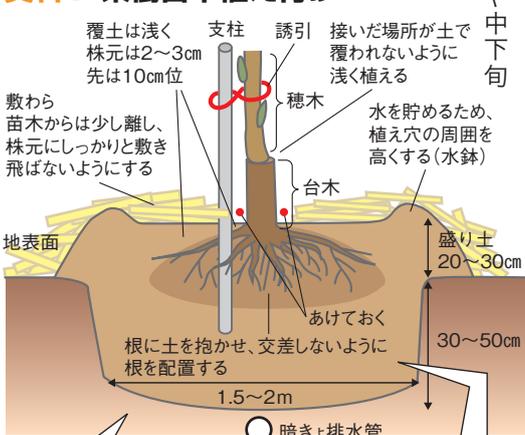
苗床の準備



苗木の仮植え



資料8 果樹苗木植え付け



全園深耕

- ・完熟堆肥
- ・土壌改良資材

- ・完熟堆肥を容積比5〜10%
- ・溶リン、苦土石灰または苦土セルカ（土壌分析を参考にする）
- ・土壌条件によってはピートモス、パーライトを容積比5〜10%追加する

ごろの花前の時期に三要素（窒素、リン酸、カリ）を同量の緩効性肥料や有機肥料など100g程度の基肥を施用します。樹と果実の生長を促す為、開花時期に追肥（速効性の硫酸等）を施します。5月中旬〜下旬ごろに施用する追肥は、結果している果実肥大の促進と8月の花芽分化（来年の花芽を作る作業）を助ける為に、約30g程度。来年の貯蔵養分（初期生育の為）は秋に蓄積されるので、8月に20g程度を追肥します。また、秋10〜11月ごろにも追肥を施します。

落葉期の間に株元に、堆肥などの有機物でマルチング（乾燥防止、雑草対策を目的に地面を覆うこと）をしてあげましょう。

収穫時期に入ったら毎日の収穫が理想ですが、少なくとも5日おきに収穫しましょう。ブルーベリーは1粒ずつ熟してくるので1粒ずつ収穫します。収穫適期は全体の果色がブルーになってから5〜7日後です。まだ、ピンク色が残っている時に収穫すると糖分が不足して、酸味を強く感じます。適期に収穫すると、手で優しくつまむだけで収穫できます。



「国消国産」
レシピ
コンテスト
白米がモリモリ進む!
かんたん丼部門
最優秀賞

後味さっぱり栄養満点!

トマトと大豆の生姜焼き丼

材料 (2人分)

ご飯……………	丼2杯分	薄力粉……………	大さじ2
豚ロース肉……………	8枚	塩・こしょう……………	各適量
トマト……………	1/2個	★酒……………	大さじ1
玉ねぎ……………	1/2個	★みりん……………	大さじ2
大豆(水煮)……………	50g	★しょうゆ……………	大さじ1と1/2
キャベツ……………	80g	★砂糖……………	小さじ1
しょうが(盛り付け用) ……	1/2個	★しょうが(チューブ) ……	大さじ1/2
サラダ油……………	小さじ2		

- 1 キャベツとしょうが(盛り付け用)を千切りにする。玉ねぎは薄切り、トマトは1cm角に切り、大豆は粗めのみじん切りにする。
- 2 豚ロース肉は筋切りをして、塩、こしょうで下味をつけたら薄く薄力粉をまぶす。
- 3 ★を混ぜ合わせる。
- 4 フライパンにサラダ油を中火で熱し、豚ロース肉を焼いて、肉の色が少し変わってきたら玉ねぎを加えて透き通るまで炒める。
- 5 4にトマト、大豆、3を加えて少し汁気が飛ばすまで煮かめらる。
- 6 器にご飯を盛り、5と1のキャベツとしょうがを盛り付ける。



インフルエンサー
青髪のテツ

青髪のテツ × JAグループ 「国消国産」レシピコンテスト

すべての
入賞レシピの
詳細はこちらに
アクセス!



○概要

- ・JAグループ主催で、青髪のテツ氏(※)とタッグを組み実施。
- ・「野菜たっぷり!スピードおかず部門」、「白米がモリモリ進む!かんたん丼部門」、「ミルク系スイーツ部門」の3部門で募集。
- ・2023年5月18日~7月18日の間で、合計287レシピが応募。

※スーパーマーケット青果部で勤めた経験を生かし、野菜の選び方などで人気を博すインフルエンサーで、Xフォロワー約66万人(8月31日時点)。

○「国消国産」とは?

「私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する」という、JAグループが提起している考え方で、国産農畜産物をおいしいレシピでたくさん食べてほしいという願いから、当コンテストも開催しました。



旧足守藩主・木下家の大名庭園

今回のあぐるグラムでは、岡山市北区足守にある近水園について紹介します。

近水園は、旧足守藩主木下家の庭園として、江戸時代中期に作庭されました。昭和34年に岡山県指定名勝になり、広さは約5,500平方メートルで小堀遠州流をくむ池泉回遊式庭園です。池のほとりにある数寄屋造りの「吟風閣」は、六代目藩主が宝永5年(1708年)京都御所(仙洞御所)を造営したときの残材で建てられたといわれ、県下では岡山の後楽園、津山の聚楽園と並ぶ大名庭園です。

池の周囲から眺める吟風閣は、四季を通じて楽しめますが、桜と紅葉の時期は特にきれいな景観に心が癒されます。

編集担当 難波 昭浩



2022年11月中旬頃撮影

各種媒体で情報発信



オンラインショップ
はなや
オンライン



Instagram



YouTube

